

校外研修Ⅰ

（授業概要）

校外研修を通して、学校外場で実体験を通して学びを深め、知的好奇心や主体性を育むとともに、社会のマナーや集団行動を学ぶ。

生体に関わる職業において必要な生体ごとの特徴や飼育・展示方法を学び、生体を理解するとともに、将来、生体に関わる仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として学ぶことを目的とする。

科	通信制学科	教員	長岡
コース	通信 1	教員の実務経験	×
対象年次	1 年	年間単位時間	35 コマ

目標

前期

- ・動物園や水族館などの、学校外の施設で実物を見たり、飼育員の講話を聞いたりすることで、教科書だけでは得られない知識や見聞を広げて、生体への興味関心を高める。
- ・公共の場での行動やグループ活動を通して、他者を思いやる気持ちや、ルールやマナーを守ることの大切さを学び、社会性や協力する力を身につける。

後期

- ・動物園や水族館などの、学校外の施設で実物を見たり、飼育員の講話を聞いたりすることで、教科書だけでは得られない知識や見聞を広げて、生体への興味関心を高める。
- ・公共の場での行動やグループ活動を通して、他者を思いやる気持ちや、ルールやマナーを守ることの大切さを学び、社会性や協力する力を身につける。

授業計画

- 1 回 校外研修①
- 2 回 校外研修①
- 3 回 校外研修①
- 4 回 校外研修①
- 5 回 校外研修①
- 6 回 校外研修①
- 7 回 校外研修①
- 8 回 校外研修②
- 9 回 校外研修②
- 10 回 校外研修②
- 11 回 校外研修②
- 12 回 校外研修②
- 13 回 校外研修②
- 14 回 校外研修②
- 15 回 校外研修③

16回	校外研修③
18回	校外研修③
19回	校外研修③
20回	校外研修③
21回	校外研修③
22回	校外研修④
23回	校外研修④
24回	校外研修④
25回	校外研修④
26回	校外研修④
27回	校外研修④
28回	校外研修④
29回	校外研修⑤
30回	校外研修⑤
31回	校外研修⑤
32回	校外研修⑤
33回	校外研修⑤
34回	校外研修⑤
35回	校外研修⑤

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

関西圏の動物園・水族館の見学・講話参加 神戸近隣の河川で生体採取 生体を販売・管理する施設見学・職業体験
--

きょうざい 教材

なし

ひょうか ほうほう 評価の方法

校外研修ごとの課題提出をもって出席とする。

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

自主学習

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

なし

哺乳類飼育概論・実習Ⅰ

(授業概要)

飼育棟や地下水族館などにおいて、小動物や家畜動物、水生生物に関する知識を応用とした飼育実践を行う。掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理といった基礎を実施する。

科	通信制学科	きょういん 教員	金田・竹内
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35×2

目標

前期

飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測をおこない、常に万が一のことを考えて行動することができるようになる。一緒に活動するメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談ができるようになる。

後期

前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。

授業計画

- 1 回 生体管理についての説明
- 2 回 消毒液について
- 3 回 生体管理のポイントについて
- 4 回 生体管理実習
- 5 回 生体管理実習について①
- 6 回 生体管理実習について②
- 7 回 生体管理実習について③
- 8 回 生体管理実習
- 9 回 生体管理実習について④
- 10 回 生体管理実習について⑤
- 11 回 生体管理実習について⑥
- 12 回 生体管理実習
- 13 回 生体管理実習について⑦
- 14 回 生体管理実習について⑧
- 15 回 前期期末試験
- 16 回 前期期末試験返却・解説
- 17 回 生体管理実習
- 18 回 生体管理実習について⑨
- 19 回 生体管理実習について⑩
- 20 回 生体管理実習
- 21 回 生体管理実習について⑪

22 回 生体管理実習について⑫
23 回 生体管理実習について⑬
24 回 生体管理実習について⑭
25 回 生体管理実習
26 回 生体管理実習について⑮
27 回 生体管理実習について⑯
28 回 生体管理実習
29 回 生体管理実習について⑰
30 回 生体管理実習について⑱
31 回 生体管理実習
32 回 後期期末試験
33 回 後期期末試験返却・解説
34 回 生体管理実習について⑲
35 回 生体管理実習について⑳

講義・生体管理実践

きょうざい
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

自作プリントの復習

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

エキゾチックアニマル飼育概論・実習Ⅰ

（授業概要）

動物を扱う仕事（ペットショップ、動物保護スタッフ、ふれあい施設スタッフ）の上で必要な動物飼育方法を身につけるために、両生爬虫類エリアの両生爬虫類のハンドリング方法や健康チェック方法、動物のケージの掃除等を実際にやりながら学び、習得する。

科	通信制学科	きょういん 教 員	竹内
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35×2 コマ

目 標

前期

両生爬虫類エリアの使い方や動物の特徴、飼育管理方法について学び、1つ1つの作業の必要性を理解した上で2時間以内に作業を終わらせる

後期

グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。

授 業 計 画

- 1回 飼育実習
- 2回 課題対応
- 3回 課題対応
- 4回 飼育実習
- 5回 課題対応
- 6回 課題対応
- 7回 課題対応
- 8回 飼育実習
- 9回 課題対応
- 10回 課題対応
- 11回 課題対応
- 12回 飼育実習
- 13回 課題対応
- 14回 課題対応
- 15回 課題対応
- 16回 課題対応
- 17回 飼育実習
- 18回 課題対応
- 19回 課題対応
- 20回 飼育実習
- 21回 課題対応
- 22回 課題対応

23 回 課題対応
24 回 課題対応
25 回 飼育実習
26 回 課題対応
27 回 課題対応
28 回 飼育実習
29 回 課題対応
30 回 課題対応
31 回 飼育実習
32 回 課題対応
33 回 課題対応
34 回 課題対応
35 回 課題対応

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、実演、実習

きょうざい
教材

なし

ひょうか ほうほう
評価の方法

課題等の提出等や授業態度にて採点。

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

課題等で出される生体について別途調べる等。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

ペットショップスタッフとして爬虫類などの飼育・治療等に従事。

水族飼育概論・実習Ⅰ

(授業概要)

水族館職員や、ペットショップスタッフ等を目指す中で魚類を基本とした飼育をできるようにする。生体の飼育方法だけでなく、飼育用品の使い方等を実践しながら学ぶ。授業では、地下の水槽で管理をしながら、説明および実践を行う。

科	通信制学科	教員	竹内
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35×2 コマ

目標

前期

飼育生体の管理方法や現在使用している用品の取り扱いができるようになる。

後期

新規導入生体の提案や、レイアウト等の作成等を行えるようになる。

授業計画

- 1回 飼育実習
- 2回 課題対応
- 3回 課題対応
- 4回 飼育実習
- 5回 課題対応
- 6回 課題対応
- 7回 課題対応
- 8回 飼育実習
- 9回 課題対応
- 10回 課題対応
- 11回 課題対応
- 12回 飼育実習
- 13回 課題対応
- 14回 課題対応
- 15回 課題対応
- 16回 課題対応
- 17回 飼育実習
- 18回 課題対応
- 19回 課題対応

20回 飼育実習
21回 課題対応
22回 課題対応
23回 課題対応
24回 課題対応
25回 飼育実習
26回 課題対応
27回 課題対応
28回 飼育実習
29回 課題対応
30回 課題対応
31回 飼育実習
32回 課題対応
33回 課題対応
34回 課題対応
35回 課題対応

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、実演、実習

きょうざい
教材

なし

ひょうか ほうほう
評価の方法

課題等の提出等や授業態度にて採点。

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

課題等で出される生体について別途調べる等。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

ペットショップスタッフとして魚類などの飼育・治療等に従事。

人間形成概論

(授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

科	通信制学科	きょういん 教 員	長岡 森田
コース	通信	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	×
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんとんいじかん 年間単位時間	35

もくひょう 目 標
前期 人間関係の基本となることを、グループワークや用語を知ることにより、 実際の社会生活に活かせる術を身に付けていく。
後期 前期に続き、社会生活に活かせる術を身に付ける。

じゅぎょうけいかく 授 業 計 画
1 回 課題
2 回 課題
3 回 課題
4 回 課題
5 回 課題
6 回 課題
7 回 課題
8 回 課題
9 回 課題
10 回 課題
11 回 課題
12 回 課題
13 回 課題
14 回 課題
15 回 課題
16 回 課題
17 回 課題
18 回 課題
19 回 課題
20 回 課題
21 回 課題
22 回 課題
23 回 課題

24 回 課題
25 回 課題
26 回 課題
27 回 課題
28 回 課題
29 回 課題
30 回 課題
31 回 課題
32 回 課題
33 回 課題
34 回 課題
35 回 課題

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

資料を配布する

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているかを意識する。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

なし

エキゾチックアニマルⅠ

（授業概要）

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要4種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	通信制学科	教員	伊勢
コース	通信1	教員の業務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得する。ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

授業計画

- 1回 エキゾチックアニマルとは
- 2回 ペットの適性について
- 3回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4回 ハムスターについて（体の特徴）
- 5回 ハムスターについて（体の特徴）
- 6回 ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8回 ハムスターについて（繁殖）
- 9回 ハムスターについて（病気）
- 10回 ハムスターについて（病気）
- 11回 ウサギについて（分類・歴史）
- 12回 ウサギについて（体の特徴）
- 13回 ウサギについて（生理的な特徴）
- 14回 ウサギについて（飼育方法）
- 15回 前期期末試験(実施)
- 16回 前期期末試験(返却・解説)
- 17回 ウサギについて（繁殖）
- 18回 ウサギについて（病気）
- 19回 ウサギについて（病気）
- 20回 モルモットについて（分類・歴史）

- 21 回 モルモットについて（体の特徴）
- 22 回 モルモットについて（体の特徴）
- 23 回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 24 回 モルモットについて（飼育方法・繁殖）
- 25 回 モルモットについて（病気）
- 26 回 モルモットについて（病気）
- 27 回 フェレットについて（分類・歴史）
- 28 回 フェレットについて（体の特徴）
- 29 回 フェレットについて（体の特徴）
- 30 回 フェレットについて（生理的な特徴）
- 31 回 フェレットについて（飼育方法）
- 32 回 後期期末試験(実施)
- 33 回 後期期末試験(返却・解説)
- 34 回 フェレットについて（病気）
- 35 回 フェレットについて（病気）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

毎回の授業の課題の提出をもって出席とする。前後期期末課題の提出

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

家畜学

(授業概要)

人間生活を支えている家畜の役割と動向、家畜の生理生態、飼料の生産と利用を学ぶ

科	通信制学科	教員	金田
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

家畜動物とはどのように人とつながっているのか、社会的役割はどのようにになっているのかを理解する。
家畜動物であるウシについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

後期

家畜動物であるブタおよびウマ、ブタについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

授業計画

- 1 回 家畜とは
- 2 回 家畜の飼料と環境
- 3 回 ウシについて①
- 4 回 ウシについて②
- 5 回 ウシについて③
- 6 回 ウシについて④
- 7 回 ウシについて⑤
- 8 回 ウシについて⑥
- 9 回 ウシについて⑦
- 10 回 ウシについて⑧
- 11 回 ウシについて⑨
- 12 回 ウシについて⑩
- 13 回 ウシについて⑪
- 14 回 ウシについて⑫
- 15 回 前期期末試験課題
- 16 回 前期期末試験課題、返却・解説
- 17 回 ウマについて①

- | | |
|-----|----------------|
| 18回 | ウマについて② |
| 19回 | ウマについて③ |
| 20回 | ウマについて④ |
| 21回 | ウマについて⑤ |
| 22回 | ブタについて① |
| 23回 | ブタについて② |
| 24回 | ブタについて③ |
| 25回 | ブタについて④ |
| 26回 | ブタについて⑤ |
| 27回 | ブタについて⑥ |
| 28回 | ニワトリについて① |
| 29回 | ニワトリについて② |
| 30回 | ニワトリについて③ |
| 31回 | ニワトリについて④ |
| 32回 | 後期期末試験課題 |
| 33回 | 後期期末試験課題、返却・解説 |
| 34回 | ニワトリについて⑤ |
| 35回 | ニワトリについて⑥ |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
自主学習

きょうざい 教材
自作プリント

ひょうか ほうほう 評価の方法
毎回の授業の課題の提出をもって出席とする。前後期期末課題の提出

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

ビジネスマナー

(授業概要、目的)

前期においてはインターンシップに備え履歴書・挨拶状・お礼状・封筒の宛名が一人で書けるようになる事。
後期については今後の就職活動を見据えて、名刺交換・電話対応・席次・などの基本的なビジネスマナーが一人で実践できるようになること。

か 科	通信制学科	きょういん 教 員	荻野
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	×
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんとたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

履歴書・挨拶状・お礼状・封筒の宛名が一人で書けるようになる

後期

就職活動を見据え、基本的なビジネスマナーが一人で実践できるようになる

授 業 計 画

- 1 回 履歴書の書き方(KAP での購入方法)
- 2 回 履歴書の書き方(履歴書の価値について)
- 3 回 履歴書の書き方(個人情報の書き方について)
- 4 回 履歴書の書き方(学歴/職歴)
- 5 回 履歴書の書き方(自己紹介書)
- 6 回 履歴書の書き方(自己紹介書)
- 7 回 履歴書の書き方(まとめ)
- 8 回 履歴書の書き方(復習)
- 9 回 挨拶文の書き方①
- 10 回 挨拶文の書き方②
- 11 回 お礼状の書き方①
- 12 回 封筒の宛名の書き方①
- 13 回 封筒の宛名の書き方①
- 14 回 課題実施(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 15 回 課題実施(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 16 回 課題実施(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 17 回 課題実施(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 18 回 課題実施(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 19 回 課題実施(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 20 回 席次①
- 21 回 席次②
- 22 回 ビジネスメール①
- 23 回 ビジネスメール②(署名作成)

- 24 回 名刺交換①
- 25 回 名刺交換②
- 26 回 入退室の仕方/お辞儀について①
- 27 回 入退室の仕方/お辞儀について②
- 28 回 面接マナー①
- 29 回 面接マナー②
- 30 回 敬語について①
- 31 回 敬語について②
- 32 回 面接練習
- 33 回 面接練習
- 34 回 面接練習
- 35 回 総まとめ/復習

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

資料配布

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80% / じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

就職活動を見据え、基本的なビジネスマナーが一人で実践できるようになる

じつむけいけん 実務経験と じゅぎょうかちく 授業科目の かんけい 関係

○

飼育用品概論Ⅰ

(授業概要)

ペットショップ・アニマルカフェなどの施設において生体管理をする上で使用する機材また道具の基本的な使用方法を学習する。また、メーカーごとの特徴や用品のアレンジ方法なども理解する。

科	通信制学科	教員	伊勢
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

ペットショップで取り扱われていることが多い小動物の飼育方法や機材の使用方法を理解し、校内の生体管理において実践できるようにする。

後期

生体ごとの望ましいレイアウト方法を理解し、メーカーごとの特徴を理解する。

授業計画

- 1 回 用品を選ぶ基準
- 2 回 環境エンリッチメントについて
- 3 回 小動物の特徴
- 4 回 用品解説：ケージ①
- 5 回 用品解説：ケージ②
- 6 回 用品解説：隠れ家、寝床
- 7 回 用品解説：トイレ
- 8 回 用品解説：サークル、運動器具
- 9 回 用品解説：遊び道具①
- 10 回 用品解説：遊び道具②
- 11 回 用品解説：床材
- 12 回 用品解説：保冷器具
- 13 回 用品解説：保温器具
- 14 回 試験対策
- 15 回 前期期末試験(実施)
- 16 回 前期期末試験(返却・解説)
- 17 回 用品解説：メンテナンス用品①
- 18 回 用品解説：メンテナンス用品②
- 19 回 用品解説：給水器、餌皿
- 20 回 用品解説：牧草

- 21 回 用品解説：フード（草食性）
- 22 回 用品解説：フード（肉食・雑食性）
- 23 回 用品解説：おやつ
- 24 回 用品解説：副食①
- 25 回 用品解説：副食②
- 26 回 小動物の販売形態について
- 27 回 系統とカラーについて①
- 28 回 系統とカラーについて②
- 29 回 系統とカラーについて③
- 30 回 ペット保険について
- 31 回 小動物の病気と診察
- 32 回 後期期末試験(実施)
- 33 回 後期期末試験(返却・解説)
- 34 回 ペット業界が抱える課題点①
- 35 回 ペット業界が抱える課題点②

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

自主学習

きょうざい 教材

自作プリント

ひょうか ほうほう 評価の方法

毎回の授業の課題の提出をもって出席とする。前後期期末課題の提出

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

あり

コンピューター実習Ⅰ

(授業概要)

動物に関わる全ての職業に共通したP Cスキル（タッチタイピング、Word 基礎、Excel 基礎、PowerPoint 基礎）を学び、レポート作成及び、2 年次における卒業研究発表で用いるプレゼン資料作成）を修得する。

科	通信制学科	きょういん 教 員	姉崎
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35×2 コマ

目 標

前期

- ・ Word の基本操作に慣れ、自身で文章作成、レポート・報告書作成が出来るようになる。
- ・ タイピング技術を高めホームポジションを覚える。

後期

- ・ Excel の基本操作に慣れ、表の作成、初歩的な関数、グラフ作成、データ管理の基礎を身につける。
- ・ PowerPoint の基本操作に慣れ、簡易的なプレゼン資料の作成と発表が出来るようになる。
- ・ タイピング技術を高め、タッチタイピングが出来るようになる。

授 業 計 画

- 1 回 授業の進め方について
- 2 回 ネットリテラシーに関して
- 3 回 Microsoft Office と Google アプリの種類と違いに関して
- 4 回 【Word】スキルチェック
- 5 回 【Word】文書作成(日付、挨拶文挿入、フォント変更など)に必要なスキルを習得する。
- 6 回 【Word】文書作成演習①
- 7 回 【Word】グラフィック機能(ワードアート・画像の挿入、文字の効果設定など)を理解する。
- 8 回 【Word】グラフィック機能演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 9 回 【Word】表のある文書作成(表の作成、レイアウト変更、表の書式設定など)を理解する。
- 10 回 【Word】表のある文書作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 11 回 【Word】レポート作成演習①
- 12 回 【Word】レポート作成演習②
- 13 回 【Word】レポート作成演習③
- 14 回 【Word】レポート作成演習④
- 15 回 前期期末試験
- 16 回 前期期末試験答案返却 & 解説
- 17 回 【Excel】スキルチェック
- 18 回 【Excel】データ入力、オートフィル演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。

関数(SUM、AVERAGE)の使い方、絶対参照を理解する。

19回 【Excel】表の書式設定、行や列の操作、印刷設定について理解する。

20回 【Excel】表作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。

21回 【Excel】表作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。

22回 【Excel】グラフ作成(グラフ機能概要、円グラフ、縦棒グラフなど)を理解する。

23回 【Excel】グラフ作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。

24回 【Excel】データ分析(データベース機能概要、テーブル変換、抽出方法など)を理解する。

25回 【Excel】データ分析演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。

26回 【Excel】データ分析演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。

27回 【Excel】アプリ間データ共有の仕方を理解する。

28回 【PowerPoint】スキルチェック

29回 【PowerPoint】プレゼンテーションの作成(スライド挿入、箇条書きテキスト入力、構成変更、表の作成など)を理解する。

30回 【PowerPoint】画像や図形の挿入、SmartArt グラフィックの作成方法を理解する。

31回 【PowerPoint】スライドショーの実行方法を理解する。

32回 【PowerPoint】自己紹介プレゼン資料作成

33回 後期期末試験

34回 後期期末試験答案返却&解説

35回 1年の振り返り

授業の方法

実演，課題作成

教材

よくわかる Word2021 & Excel2021 & PowerPoint2021。

その他、必要に応じた資料をその都度使用。

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

授業外での学習方法

課題作成を行い、自身で作成するスキルを向上。知らない知識や単語を調べる。

実務経験と授業科目の関係

あり。

コンパニオンドッグ I

(授業概要)

犬に関わる職業において必要な犬種ごとの特徴や対応を学び、犬を理解するとともに、将来の仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として学ぶ。また、実習において基礎知識を応用し、実際に犬と関わるうえで犬の扱い方、対応を実践としてつなげる。

科	通信制学科	きょういん 教 員	伊勢
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員 の 実 務 経 験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

主要犬種の J K C でのグループ分け、犬種の外観、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性などを学び外観を見て犬種名、犬種の特徴を説明できるようになる

後期

主要以外の人気犬種の J K C でのグループ分け、犬種の外観、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性などを学び、外観を見て犬種名、犬種の特徴を説明できるようになる

授 業 計 画

- 1 回 グループ分け①
- 2 回 グループ分け②
- 3 回 グループ分け③
- 4 回 グループ分け④
- 5 回 グループ分け⑤
- 6 回 人気犬種 2 種(プードル、チワワ)
- 7 回 人気犬種 2 種(ダックス、ポメラニアン)
- 8 回 人気犬種 2 種(ミニチュア・シュナウザー、フレンチブルドッグ)
- 9 回 人気犬種 2 種(マルチーズ、ヨークシャー・テリア)
- 10 回 人気犬種 2 種(柴、シー・ズー)
- 11 回 人気犬種 2 種(ゴールデン・レトリバー、パグ)
- 12 回 人気犬種 2 種(ラブラドル・レトリバー、コーギー)
- 13 回 人気犬種 2 種(パピヨン、ビション・フリーゼ)
- 14 回 人気犬種 2 種(ジャック・ラッセル・テリア、ボーダー・コリー)
- 15 回 前期期末試験(実施)
- 16 回 前期期末試験(返却・解説)
- 17 回 課題
- 18 回 人気犬種 2 種(ペキニーズ、イタリアン・グレー・ハウンド)
- 19 回 人気犬種 2 種(ミニチュア・シャー、キャバリア)
- 20 回 人気犬種 2 種(シェルティー、ビーグル)

- 21 回 人気犬種 2 種(ボストン・テリア、アメリカン・コッカー・スパニエル)
- 22 回 人気犬種 2 種(シベリアン・ハスキー、日本スピッツ)
- 23 回 人気犬種 2 種(バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ブルドッグ)
- 24 回 人気犬種 2 種(シェパード、ウエスティー)
- 25 回 人気犬種 2 種(秋田、ウィペット)
- 26 回 人気犬種 2 種(イングリッシュ・コッカー・スパニエル、ドーベルマン)
- 27 回 人気犬種 2 種(ボルゾイ・ダルメシアン)
- 28 回 人気犬種 2 種(グレート・ピレニーズ、狎)
- 29 回 人気犬種 2 種(フラットティー、サモエド)
- 30 回 人気犬種 2 種(ワイマラナー、ラフ・コリー)
- 31 回 人気犬種 2 種(ロットワイラー、ノーフォークテリア)
- 32 回 後期期末試験(実施)
- 33 回 後期期末試験(返却・解説)
- 34 回 人気犬種 2 種(ミニチュア・ブル・テリア、ボクサー)
- 35 回 人気犬種 2 種(セント・バーナード、チャイニーズ・クレストッド・ドッグ)

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

まるごとわかる犬種図鑑

ひょうか ほうほう
評価の方法

毎回の授業の課題の提出をもって出席とする。前後期期末課題の提出

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかちく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

両生爬虫類学Ⅰ

（授業概要）

両生類と爬虫類は、世界中に広く分布し、生態学的な役割が重要であり、近年でもペットとして飼われる傾向も上がっている。また、両生爬虫類は経済、医療、社会文化など様々な価値があり、人間との関係性も従来から深く築いている。本授業では、生態学を視座として、両生爬虫類における動物学的特徴、生息地や保全状況などの基礎知識を知り、人間との関係性について理解し、最終的に娯楽として、基礎的な両生類・爬虫類の飼い方を学ぶ。

か 科	通信制学科	きょういん 教 員	潘 之甫
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

両生類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

両生類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

両生類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

後期

爬虫類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

爬虫類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

爬虫類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

授 業 計 画

- 1 回 オリエンテーション、本講義について
- 2 回 両生類の特徴
- 3 回 両生類の分類、多様性 1
- 4 回 両生類の分類、多様性 2
- 5 回 両生類の行動生態
- 6 回 両生類の調査方法
- 7 回 両生類の保全現状
- 8 回 両生類の様々な価値
- 9 回 両生爬虫類の変温特性について
- 10 回 両生類の飼育環境・飼育方法について 1
- 11 回 両生類の飼育環境・飼育方法について 2
- 12 回 爬虫類の特徴（有鱗目）
- 13 回 爬虫類の分類（有鱗目）
- 14 回 爬虫類の多様性（有鱗目）
- 15 回 2 学期に向けて

- | | |
|------|-----------------------|
| 16 回 | 試験対策 1 |
| 17 回 | 試験対策 2 |
| 18 回 | 前期期末試験 |
| 19 回 | 試験返却 |
| 20 回 | 両生爬虫類の進化について |
| 21 回 | 爬虫類の特徴・分類（カメ目） |
| 22 回 | 爬虫類の多様性（カメ目） |
| 23 回 | 爬虫類の特徴（ワニ目） |
| 24 回 | 爬虫類の分類（ワニ目） |
| 25 回 | 爬虫類の多様性（ワニ目） |
| 26 回 | 爬虫類の調査方法 |
| 27 回 | 爬虫類の保全現状、保全にできること |
| 28 回 | 爬虫類の生態系サービスについて |
| 29 回 | 爬虫類の飼育環境・飼育方法（トカゲ・ヘビ） |
| 30 回 | 爬虫類の飼育環境・飼育方法（カメ） |
| 31 回 | 学術文献の調べ方 |
| 32 回 | 学術文献のまとめ方 |
| 33 回 | これまでの振り返り、試験対策 1 |
| 34 回 | 試験対策 2 |
| 35 回 | 後期期末試験、試験フィードバック |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
講義、演習

きょうざい 教材
両生類・爬虫類のふしぎ（サイエンス・アイ新書 84） Amphibians and reptiles (Naturalists' Handbooks Book 31) (English Edition) ※必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう 評価の方法
期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

じゅぎょうがいはく がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
台湾・台北市立木柵動物園保全研究センターでの実務経験。日本環境教育学会員。

資格対策

(授業概要、目的)

サービス接遇検定 3 級の認定試験で合格する事。

試験に合格し資格を取得することで就職活動や就職後の業務に活用できる。

サービス接遇検定⇒6 月上旬に認定試験開催⇒試験範囲(サービススタッフの資質/専門知識/一般知識/対人技能/実務技能)教材をもとに対策授業を行う。

か 科	通信制学科	きょういん 教 員	荻野
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員 の 実 務 経 験	×
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

- ・ サービス接遇検定 3 級取得を目指す。
- ・ 初歩的なサービス接遇(相手に満足を提供すること)を身につけるために必要な知識と技能を身につける。

後期

- ・ サービス接遇検定 2 級取得を目指す。
- ・ 基本的なサービス接遇(相手に満足を提供すること)を身につけるために必要な知識と技能を身につける。

授 業 計 画

- 1 回 サービススタッフの資質
- 2 回 専門知識
- 3 回 一般知識
- 4 回 対人技能
- 5 回 実務技能
- 7 回 模擬試験(6/14 認定試験)
- 8 回 2 級取得に向けて
- 9 回 サービススタッフの資質
- 10 回 専門知識
- 11 回 一般知識
- 12 回 対人技能
- 13 回 実務技能
- 14 回 掲示文対策
- 15 回 模擬試験
- 16 回 模擬試験
- 17 回 模擬試験
- 18 回 模擬試験

- 19回 模擬試験
- 20回 模擬試験
- 21回 模擬試験
- 22回 模擬試験
- 23回 模擬試験
- 24回 模擬試験
- 25回 模擬試験
- 26回 模擬試験
- 27回 模擬試験
- 28回 準1級取得に向けて
- 29回 実技試験対策
- 30回 実技試験対策
- 31回 実技試験対策
- 32回 実技試験対策
- 33回 実技試験対策
- 34回 実技試験対策
- 35回 実技試験対策

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

サービス接遇検定実問題集(3級)

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%/授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

問題集を活用した試験対策

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

○

HR/動物基礎演習Ⅰ

(授業概要)

動物についての様々な知識を身に着けること、細胞学、生理学、生態学、遺伝学などの様々な視点から動物に理解することで人と動物の違いや今後の実習で動物を触る際の基礎知識を身に着ける。

科	通信制学科	教員	姉崎拓都
コース	通信 1 年	教員の実務経験	×
対象年次	1 年	年間単位時間	35×3 コマ

目標

前期

動物がどのような原理で活動しているのか、人間ベースや動物ベースなど様々な視点から知識を得ることで動物の生命維持や多様性を理解する。

後期

動物の行動、性質、その営みを知ることによって人との類似点、相違点を知り、動物と人間の共生を模索できるような考え方を育む。実際の環境活動などを知り、自然と人間との関係を理解する。

授業計画

- 1 回 オリエンテーション・授業の進め方
- 2 回 生物のからだを構成する物質
- 3 回 細胞の構造と働き
- 4 回 細胞の多様性と生物の階層性
- 5 回 体の受容器：眼
- 6 回 体の受容器：耳、鼻、舌、皮膚
- 7 回 ニューロン（神経細胞）
- 8 回 神経系
- 9 回 筋肉
- 10 回 動物の行動
- 11 回 体液とその循環①
- 12 回 体液とその循環②
- 13 回 肝臓
- 14 回 腎臓
- 15 回 前期期末課題
- 16 回 前期期末課題返却
- 17 回 自律神経
- 18 回 内分泌系

- 19 回 メンデルの法則と遺伝子①
- 20 回 メンデルの法則と遺伝子②
- 21 回 動物の生殖
- 22 回 動物の発生①
- 23 回 動物の発生②
- 24 回 動物の発生③
- 25 回 バイオテクノロジーの応用
- 26 回 個体群と環境
- 27 回 個体群内の相互作用
- 28 回 生物群集と個体群間の相互作用
- 29 回 バイオーム
- 30 回 植生の遷移
- 31 回 生物多様性と生態系の保全
- 32 回 後期期末課題
- 33 回 後期期末課題返却
- 34 回 生物の起源
- 35 回 まとめ

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

資料配布後、課題の提出

きょうざい
教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

毎回の授業課題の提出をもって出席とする。前後期期末課題の提出」

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

科学館や博物館の展示物や展示パネルの解説を読む

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

生物系教科の履修経験あり

動物看護概論Ⅰ

(授業概要)

伴侶動物として一般的な犬・猫を中心に一緒に暮らすうえで必要な知識を得る

科	通信学科	教員	三輪
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

犬、猫、眼について看護学を通して理解する

後期

耳、皮膚、歯、爪に関して学び、動物看護の基礎知識を培う

授業計画

前期

第 1 回 犬-1

第 2 回 犬-2

第 3 回 犬-3

第 4 回 犬-4

第 5 回 犬-5

第 6 回 猫-1

第 7 回 猫-2

第 8 回 猫-3

第 9 回 猫-4

第 10 回 猫-5

第 11 回 眼について-1

第 12 回 眼について-2

第 13 回 眼について-3

第 14 回 眼について-4

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験・解説

第 17 回 耳について-1

第 18 回 耳について-2

第 19 回 耳について-3

第 20 回 耳について-4

後期

第 2 1 回 皮膚について-1
第 2 2 回 皮膚について-2
第 2 3 回 皮膚について-3
第 2 4 回 皮膚について-4
第 2 5 回 皮膚について-5
第 2 6 回 歯について-1
第 2 7 回 歯について-2
第 2 8 回 歯について-3
第 2 9 回 歯について-4
第 3 0 回 爪について-1
第 3 1 回 爪について-2
第 3 2 回 後期期末試験
第 3 3 回 後期期末試験・解説
第 3 4 回 総まとめ-1
第 3 5 回 総まとめ-2

授業の方法

教材を読んでからワークを実施

教材

授業毎 word 教材

評価の方法

きまつしけん
期末試験 80%、平常点 20%

授業外での学習方法

特になし

実務経験と授業科目の関係

あり

動物人間関係論Ⅰ

(授業概要)

人と動物の関係を歴史でさかのぼりながら学び、現代の動物福祉問題を幅広く知り、考えられるようにする。そして社会に出てからも問題に関心を持ち、自らの動物に対する考えを確立できるようにする。

科	通信制学科	教員	伊勢
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

- ・人と動物の関係性を歴史で遡りながら把握する。
- ・現代の人の社会での動物の立場を理解する。

後期

- ・動物が人に与える影響を知る。
- ・人が動物に与える影響を知り、問題を捉え、様々な意見を通じて自ら考える力を身に付ける。

授業計画

- 1 回 現代のペット事情を知る
- 2 回 現代のペット問題を考えよう
- 3 回 ヒトと動物の歴史(日本)①
- 4 回 ヒトと動物の歴史(日本)②
- 5 回 ヒトと動物の歴史(日本)③
- 6 回 ヒトと動物の歴史(世界)①
- 7 回 ヒトと動物の歴史(世界)②
- 8 回 ヒトと動物の歴史(世界)③
- 9 回 動物福祉・動物愛護
- 10 回 法律上での動物
- 11 回 産業動物について
- 12 回 実験動物について
- 13 回 展示動物について
- 14 回 野生動物について
- 15 回 前期期末試験(実施)
- 16 回 前期期末試験(返却・解説)
- 17 回 動物が人に及ぼす影響
- 18 回 子どもと動物

19 回 高齢者と動物
20 回 罪を犯した人と動物
21 回 殺処分について①
22 回 殺処分について①
23 回 動物虐待について①
24 回 動物虐待について②
25 回 多頭飼育崩壊について①
26 回 多頭飼育崩壊について②
27 回 ペットロスについて①
28 回 ペットロスについて②
29 回 ペットの安楽死について①
30 回 ペットの安楽死について②
31 回 ペットの社会進出①
32 回 後期期末試験(実施)
33 回 後期期末試験(返却・解説)
32 回 ペットの社会進出②
35 回 振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験 80%、じょうたんとく 平常点 20% (しゅっせきりつ 出席率、じゅぎょうたいど 授業態度等)

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん 実務経験と じゅぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

あり

栄養学Ⅰ

(授業概要)

五大栄養素の基礎的な知識、犬猫に必要な栄養素、エネルギー要求量、ライフステージ毎の栄養管理、ペットフードの基本的知識、様々な疾患時の療養食の特性など、動物の状態に適合した食事管理についての知識を身に着ける。

科	通信制学科	教員	伊勢
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

五大栄養素について理解をする。BCS やエネルギー要求量の計算方法を身に着ける

後期

フードの歴史、種類、選び方、ライフステージ別のフードの違い、アレルギー、食べてはいけないもの、PB と NB の違いを理解し、接客できるようになる。

授業計画

- 1 回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2 回 五大栄養素 (たんぱく質)
- 3 回 五大栄養素 (たんぱく質)
- 4 回 五大栄養素 (炭水化物)
- 5 回 五大栄養素 (炭水化物)
- 6 回 五大栄養素 (脂質)
- 7 回 五大栄養素 (脂質)
- 8 回 五大栄養素 (ビタミン)
- 9 回 五大栄養素 (ビタミン)
- 10 回 五大栄養素 (ミネラル)
- 11 回 五大栄養素 (ミネラル)
- 12 回 ボディコンディションスコア (BCS)
- 13 回 エネルギー要求量
- 14 回 エネルギー要求量
- 15 回 前期期末試験(実施)
- 16 回 前期期末試験(返却・解説)
- 17 回 エネルギー要求量
- 18 回 フードの歴史
- 19 回 4 D/フードの種類 (ドライ・セミモイスト・ウェット)
- 20 回 フードの種類 (総合栄養食・栄養補助食・特別療法食)
- 21 回 パッケージの見方
- 22 回 添加物・酸化防止剤・保存料

23 回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）

24 回 ライフステージ（維持期・高齢期）

25 回 食物アレルギー

26 回 食物アレルギー

27 回 犬猫が食べてはいけないもの

28 回 犬猫が食べてはいけないもの

29 回 PB と NB の違い

30 回 栄養と消化器官①

31 回 栄養と消化器官②

32 回 後期期末試験(実施)

33 回 後期期末試験(返却・解説)

34 回 栄養と消化器官③

35 回 栄養と消化器官④

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

毎回の授業の課題の提出をもって出席とする。前後期期末課題の提出

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

魚類生理生態学Ⅰ

（授業概要）いわゆる「魚類」に含まれる円口類、軟骨魚類、硬骨魚類、について、水族館やアクアショップでの「飼育管理」ならびに「お客様への説明」に求められる生理・生態・形態の特徴の基本を理解する。また、環境に応答した魚類の生理的变化を理解した上で魚類の飼育に取り組むことができる。

科	通信制学科	きょういん 教員	姉崎
コース	通信 1	きょういん　じつむけいけん 教員の実務経験	×
たいしょうねんじ 対象年次	1 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35 時間

目標

前期

①魚類がどのような「分類群」に分けられているのかを説明することができる。②魚類に共通した「形態的特徴」を説明することができる。③魚類の「飼育管理にその対象種の生理的・形態的機能を関連付ける」ことができる④課題の提出を持って出席にする。

後期

①魚類に共通した「生理的特徴」を説明することができる。②魚類の「飼育管理にその対象種の生理的・形態的機能を関連付ける」ことができる。③環境の変化が魚類の飼育に与える影響を理解し、「環境汚染が大きな問題」であることを意識できる。④水族館職員やアクアショップ店員に必要な、「他者に魚類の生理機能についての解説」が円滑にできる⑤課題の提出を持って出席にする。

授業計画

- 1 回　オリエンテーション・アンケート
- 2 回　動物の生理的特徴/構造①
- 3 回　動物の生理的特徴/構造②
- 4 回　動物の生理的特徴/構造③
- 5 回　動物の生理的特徴/構造④
- 6 回　動物の生理的特徴/構造⑤
- 7 回　動物の生理的特徴/構造⑥
- 8 回　動物の生理的特徴/構造⑦
- 9 回　魚類の呼吸①
- 10 回　魚類の呼吸②
- 11 回　魚類の呼吸③
- 12 回　動物のコミュニケーション・擬態①
- 13 回　動物のコミュニケーション・擬態②
- 14 回　動物のコミュニケーション・擬態③
- 15 回　前期期末課題
- 16 回　課題返却
- 17 回　魚類の分類と系統の概要①
- 18 回　魚類の分類と系統の概要②
- 19 回　魚類の分類と系統の概要③

- 20 回 分類群別に見た魚類の特性①
- 21 回 分類群別に見た魚類の特性②
- 22 回 分類群別に見た魚類の特性③
- 23 回 骨格と機能①
- 24 回 骨格と機能②
- 25 回 形態に見られる環境適応①
- 26 回 形態に見られる環境適応②
- 27 回 回遊・浸透圧調整①
- 28 回 回遊・浸透圧調整②
- 29 回 魚病の発生①
- 30 回 魚病の発生②
- 31 回 魚病の発生③
- 32 回 後期期末課題
- 33 回 課題返却
- 34 回 有毒魚について
- 35 回 年間の振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習

きょうざい
教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

毎回の授業の課題の提出をもって出席する。前後期期末課題の提出

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

東海大学海洋学部環境社会学科卒業 水族館での実習経験あり

昆虫学Ⅰ

（授業概要）

この授業では、昆虫の体の構造・生態・行動・分類・進化などについて幅広く学ぶ。前期は、昆虫の基本的なつくりや運動・交信・食性などの基礎的な内容を中心に扱う。後期では、環境への適応、社会性、擬態、飛翔、分類や人との関わりなど、より発展的な内容を学ぶ。昆虫の多様性と生物としての重要性を理解することを目指す。

科	環境科学科	教員	西中
コース	通信制 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

昆虫の基本的な特徴と構造を理解する。

昆虫の行動や生態（運動、交信、生殖、食性など）について理解を深める。

水生昆虫や寄生者など、多様な昆虫の生活様式を理解する。

後期

さまざまな環境に暮らす昆虫の特徴や適応のしかたを学ぶ。

擬態・飛翔・社会性など、昆虫の高度な行動や機能を理解する。

昆虫の分類・進化や人との関係について考察を深める。

授業計画

- 1 回 昆虫とは
- 2 回 昆虫と人との関わり
- 3 回 昆虫の体のつくり①
- 4 回 昆虫の体のつくり②
- 5 回 昆虫の体のつくり②
- 6 回 昆虫の運動能力①
- 7 回 昆虫の運動能力②
- 8 回 昆虫の交信
- 9 回 昆虫の生殖
- 10 回 昆虫の食性について①
- 11 回 昆虫の食性について②
- 12 回 寄生者について
- 13 回 水生昆虫①
- 14 回 前期まとめ
- 15 回 前期期末試験（課題）
- 16 回 前期課題フィードバック

- 17 回 水生昆虫②
- 18 回 海洋島の昆虫
- 19 回 南西諸島の昆虫たち
- 20 回 擬態をする昆虫①
- 21 回 擬態をする昆虫②
- 22 回 昆虫の飛翔①
- 23 回 昆虫の飛翔②
- 24 回 社会性の昆虫①
- 25 回 社会性の昆虫②
- 26 回 益虫と害虫
- 27 回 分子情報による系統推定
- 28 回 クワガタムシの性的二型
- 29 回 希少な昆虫について
- 30 回 外来種問題
- 31 回 後期ふりかえり
- 32 回 後期期末試験（課題）
- 33 回 後期課題フィードバック
- 34 回 スプリング・エフェメラル（春の儚き命）
- 35 回 まとめ

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義、グループワーク

きょうざい 教材

参考資料を配布

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度・しゅっせきりつ 出席率20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

授業で学んだことを復習することに加え、身近な昆虫の名前を少しでも多く覚えるよう自主的に学習する。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

大阪府立大学大学院生命科学研究科 元客員研究員。箕面公園昆虫館 元スタッフ。万博記念公園自然観察学習館 元指導員。関西大学 元非常勤講師。

接客演習Ⅰ

（授業概要）

接客や売り場作成など店舗運営に必要な知識を身に着け、社会に出た際に即戦力となるように育成していく。

科	通信制学科	きょういん 教 員	津田
コース	通信 1	きょういん じつむけいけん 教 員 の 実 務 経 験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

接客の「言葉使い」「お礼の角度」「立ち振る舞い」「服装」など基礎から学び、下地を作り上げていく

後期

前期で学んだ内容の振り返りを実施して、「顧客にあわせた言葉使い」「店舗にあわせた服装」など応用も把握し、どこに就職しても即戦力になるように学ぶ

授 業 計 画

- 1 回 課題（基本姿勢・接客 7 大用語について）
- 2 回 課題（お辞儀の角度について）
- 3 回 課題（接客について＜基本＞）
- 4 回 課題（接客について＜応用＞）
- 5 回 課題（敬語について）
- 7 回 課題（顧客満足度を上げるには？）
- 8 回 課題（一貫性の原理、数珠繋ぎ、連想について）
- 9 回 課題（一貫性の原理、数珠繋ぎ、連想について）
- 10 回 課題（接客でやってはいけないことについて）
- 11 回 課題（5W1H とは？）
- 12 回 課題（5W1H を上手く使うコツ）
- 13 回 夏休み前の課題配布
- 14 回 課題確認
- 15 回 前期期末試験の対策
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期の振り返り
- 18 回 課題（POP について）
- 19 回 課題（POP の文字について）
- 20 回 課題（POP 作成）
- 21 回 課題（POP 作成）
- 22 回 課題（チラシについて）

23 回 課題（チラシ作成）
24 回 課題（犬の接客について）
25 回 課題（犬の接客について）
26 回 課題（犬の接客について）
27 回 課題（犬の接客について）
28 回 課題（猫の接客について）
29 回 課題（猫の接客について）
30 回 課題（猫の接客について）
31 回 課題（後期期末試験の対策）
32 回 後期期末試験
33 回 後期期末試験の振り返り
34 回 1 年の振り返り
35 回 1 年の振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自主学習

きょうざい
教材

資料配布

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験 80%、じょうたんとく 平常点 20%（しゅっせきりつ 出席率、じゅぎょうたいど 授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

特になし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物生態学

（授業概要）

本授業では、動物の進化の歴史や種概念、分布、個体群の構造、生物間の相互作用など、動物を取り巻く生態学的基本原理を学ぶ。あわせて、生態系の構造とその機能、生物多様性の意義とその3つのレベルについて理解を深める。後半では、外来生物や絶滅危惧種の問題、生物の衰退要因など現代の環境問題を取り上げ、定性・定量調査の手法を学習する。さらに、猛禽類や大型哺乳類（シカ・イノシシ）の生態と管理についても実例を通して学び、生物多様性を守るための具体的な考察につなげることを目的とする。

科	通信制学科	教員	西中
コース	通信 1	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	35

目標

前期

生物の進化の歴史や、種の多様性・種分化のしくみを理解する。
生物にとっての環境の重要性と、その適応や分布との関係を学ぶ。
個体群や生物間の相互作用について、基本的な仕組みを理解する。

後期

生態系における生物の役割や、生物多様性の意義を理解する。
生物の絶滅要因や外来種問題など、現代的課題について学ぶ。
動物調査の基本的な方法や管理の考え方を身につける。

授業計画

- 1 回 地球の生物の歴史①
- 2 回 地球の生物の歴史②
- 3 回 種概念と種分化①
- 4 回 種概念と種分化②
- 5 回 生物にとっての環境①
- 6 回 生物にとっての環境②
- 7 回 生物の分布①
- 8 回 生物の分布②
- 9 回 個体群と種内競争①
- 10 回 個体群と種内競争②
- 11 回 生物間の相互作用①
- 12 回 生物間の相互作用②
- 13 回 生態系の構造とその機能①
- 14 回 前期まとめ
- 15 回 前期期末試験（課題）

- 16 回 前期課題フィードバック
- 17 回 生態系の構造とその機能②
- 18 回 3つのレベルの生物多様性①
- 19 回 3つのレベルの生物多様性②
- 20 回 レッドリストについて
- 21 回 外来生物と外来生物法
- 22 回 生物の衰退とその要因①
- 23 回 生物の衰退とその要因②
- 24 回 生物の衰退とその要因③
- 25 回 生物の衰退とその要因④
- 26 回 定性調査と定量調査①
- 27 回 定性調査と定量調査②
- 28 回 猛禽類（ワシ・タカ類）の生態と調査①
- 29 回 猛禽類（ワシ・タカ類）の生態と調査②
- 30 回 シカ・イノシシの生態と管理
- 31 回 後期ふりかえり
- 32 回 後期期末試験（課題）
- 33 回 後期課題フィードバック
- 34 回 生物多様性を守るために
- 35 回 まとめ

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

参考資料を配布

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度・しゅっせきりつ 出席率20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業資料を読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習をする。

じつむけいけん 実務経験と じゅぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

大阪府立大学大学院生命科学研究科 元客員研究員。関西大学 元非常勤講師。